

平成27年産水稻の8月15日現在における作柄概況

－早期栽培の作柄は作況指数「96」の見込み、普通栽培の生育は「やや不良」－

【調査結果の概要】

高知県における早期栽培の8月15日現在の10a当たり予想収量は462kg、作況指数は「96」のやや不良が見込まれます。

また、普通栽培の生育は「やや不良」で推移しています。

図 早期栽培の作況指数

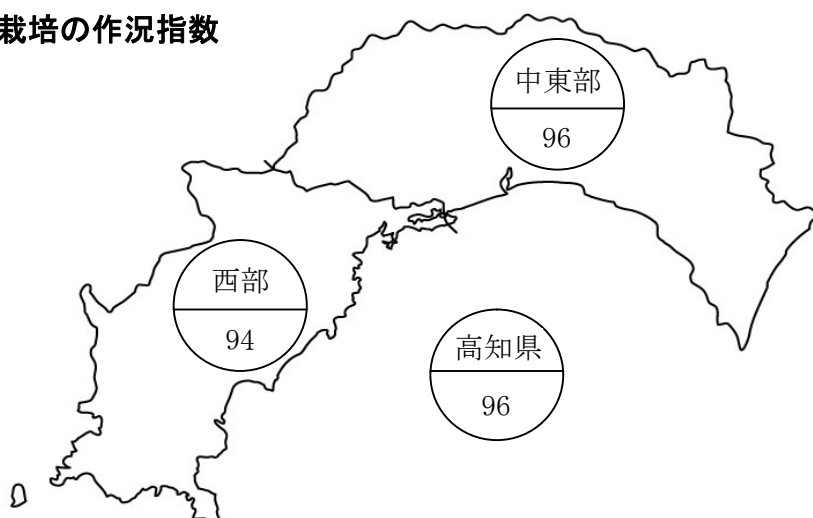


表 1 早期栽培の10a当たり予想収量(8月15日現在)

区 分	10a 当たり 予想収量 ①	(参考)農家等が使用している ふるい目幅で選別			(参 考)	
		10a 当たり 予想収量 ②	10a 当たり 平年収量 ③	作況指数 ④=②/③	作付面積 (子実用、見込み) ⑤	予想収穫量 ⑥=①×⑤
	kg	kg	kg		ha	t
高 知 県	462	459	478	96	6,750	31,200
中 東 部	477	474	493	96	4,880	23,300
西 部	422	419	446	94	1,870	7,890

注：1 10a 当たり予想収量①は、1.70mm のふるい目幅で選別された玄米の数量です。

2 農家等が使用しているふるい目幅で選別された10a 当たり予想収量②、10a 当たり平年収量③及び作況指数④については、四国地域において農家等が使用しているふるい目幅の分布（4ページ【参考】参照）において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅（1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

3 （参考）作付面積（子実用、見込み）⑤は、関係機関等からの情報収集により把握した現時点での見込みの面積（参考値）であり、今後変動する可能性があります。

水稻の作柄概況調査は、稲の生育段階に応じて調査しており、高知県では、早期、普通栽培の作期別に取りまとめを行っています。8月15日現在の作柄概況については、**早期栽培は10a当たり予想収量(参考として作況指数)、普通栽培は生育の良否**として公表します。

【 調査結果 】

1 早期栽培

田植期は、苗の生育がおおむね順調であったことから、最盛期は4月11日となり、平年より1日早くなりました。

田植後の生育は、4月上旬から中旬にかけて日照時間は少ないものの、その後4月下旬から5月下旬にかけて高温・多照で経過したことから、おおむね順調でした。

出穂期は、高温・多照で経過し生育が早くなったことから、最盛期は7月1日となり、平年より7日早くなりました。

全もみ数は、穂数、1穂当たりもみ数とも平年並みであったことから、平年並みとなりました。

登熟は、①6月以降の日照不足のため、出穂前の養分蓄積量が少なかったことなどから稔実が悪かったこと、②梅雨明けが平年より6日遅い7月24日となり、曇雨天が続いたことから穂いもちの発生がやや多くなったこと、③梅雨明け後は高温で経過し、稲体の消耗による登熟抑制があったことなどからやや不良と見込まれます。

被害は、日照不足による登熟への影響やいもち病の発生などから、総じてやや多いと見込まれます。

これらのことから、早期栽培の作柄は作況指数「96」のやや不良が見込まれます。

地帯別には、西部では、全もみ数がやや少なくなったことに加え、日照不足やいもち病の被害が多いことなどから、作況指数「94」の不良が見込まれます。

2 普通栽培

田植期は、育苗期間が高温・多照で経過し苗の生育が早くなったことから、最盛期は5月25日となり、平年より3日早くなりました。

田植後の生育は、6月上旬から7月中旬にかけて低温・寡照で経過したことから、草丈は平年並みであったものの、茎数はやや少なくなりました。

被害は、6月以降曇雨天が多かったことから葉いもちの発生が多くみられています。

これらのことから、普通栽培の生育は、茎数がやや少なく、葉いもちの発生が多くみられることからやや不良で推移しています。

◎ 水稻調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業災害補償法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業における共済基準収穫量算定のための資料

表2 早期栽培の作柄概況(8月15日現在)

区 分	平 年 比 較			
	穂数の 多 少	1 穂当たり もみ数の多少	全もみ数の 多 少	登熟の 良 否
高 知 県	平年並み	平年並み	平年並み	やや不良
中 東 部	平年並み	平年並み	平年並み	やや不良
西 部	やや少ない	やや多い	やや少ない	やや不良

注： 本表における平年比較の表示区分は、「やや多い」が対平年比105～102%、「平年並み」が同101～99%、「やや少ない・やや不良」が同98～95%に相当します。

表3 普通栽培の生育状況(8月15日現在)

区 分	平 年 比 較		
	生育の良否	草丈の長短	茎数の多少
高 知 県	やや不良	平年並み	やや少ない
中 東 部	平年並み	平年並み	平年並み
西 部	やや不良	平年並み	やや少ない

注： 普通栽培の生育状況は、草丈の長短、茎数の多少等の計測結果、生育の遅速、被害の発生状況及び一部のほ場における計測可能な穂数、もみ数等の計測結果等を総合して、8月15日現在における稲体の生育状態を調査したもので、作柄を予測したものではありません。

表4 田植・出穂等の状況(8月15日現在)

早期栽培

区 分	田 植 期					出 穂 期					刈取済面積割合	
	始 期	最 盛 期	終 期	最盛期 の比較		始 期	最 盛 期	終 期	最盛期 の比較			対平 年差
				対平年	対前年				対平年	対前年		
	月 日	月 日	月 日	日	日	月 日	月 日	月 日	日	日	%	ポイント
高 知 県	4. 3	4. 11	4. 23	1 日早	1 日遅	6. 25	7. 1	7. 12	7 日早	5 日早	74	19
中 東 部	4. 2	4. 9	4. 22	並み	1 日遅	6. 23	6. 30	7. 11	8 日早	5 日早	70	16
西 部	4. 5	4. 15	4. 23	1 日早	1 日遅	6. 27	7. 2	7. 13	6 日早	4 日早	85	28

普通栽培

区 分	田 植 期					出 穂 期			出穂済面積割合	
	始 期	最 盛 期	終 期	最盛期 の比較		始 期	最 盛 期	終 期		対平 年差
				対平年	対前年					
	月 日	月 日	月 日	日	日	月 日	月 日	月 日	%	ポイント
高 知 県	5. 16	5. 25	6. 13	3 日早	3 日早	8. 11	28	7
中 東 部	5. 17	5. 25	6. 13	2 日早	2 日早	8. 12	25	6
西 部	5. 14	5. 25	6. 12	3 日早	3 日早	8. 10	30	8

注：1 田植期及び出穂期の始期、最盛期、終期とは、田植及び出穂済みの面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日です。

2 出穂期の最盛期、終期の「…」は、8月15日現在でそれぞれの期日に達していないことを示します。

◎ 累年データ

水稻（子実用）の作付面積及び収穫量の年次別推移（高知県）

年 産	水稻合計				早期栽培				普通栽培			
	作付面積 (子実用)	10a 当たり 収量	収 穫 量 (子実用)	作 況 指 数	作付面積 (子実用)	10a 当たり 収量	収 穫 量 (子実用)	作 況 指 数	作付面積 (子実用)	10a 当たり 収量	収 穫 量 (子実用)	作 況 指 数
	ha	kg	t		ha	kg	t		ha	kg	t	
昭 和 60	20,100	412	82,800	109	7,660	444	34,000	108	12,400	393	48,700	110
61	19,900	406	80,800	106	7,860	440	34,600	106	12,000	384	46,100	105
62	18,500	398	73,600	102	7,490	430	32,200	103	11,000	376	41,400	101
63	18,200	404	73,500	102	7,580	427	32,400	101	10,600	388	41,100	103
平 成 元	17,900	413	73,900	103	7,630	448	34,200	104	10,300	387	39,900	102
2	17,600	415	73,000	102	7,950	460	36,600	106	9,640	378	36,400	98
3	17,300	409	70,800	100	8,230	436	35,900	100	9,030	384	34,700	99
4	17,300	409	70,800	100	8,740	438	38,300	101	8,570	379	32,500	98
5	17,200	368	63,300	90	9,170	394	36,100	91	8,040	338	27,200	88
6	17,400	456	79,300	111	9,630	463	44,600	107	7,790	447	34,800	116
7	17,200	468	80,500	114	9,690	493	47,800	114	7,500	437	32,800	113
8	15,800	447	70,600	107	9,020	476	42,900	109	6,740	411	27,700	105
9	15,000	420	63,000	99	8,770	436	38,200	98	6,260	396	24,800	99
10	14,000	391	54,700	90	8,250	388	32,000	86	5,710	398	22,700	97
11	14,000	432	60,500	97	8,230	453	37,300	98	5,790	402	23,300	95
12	13,900	467	64,900	104	8,180	486	39,800	104	5,750	438	25,200	103
13	13,700	459	62,900	102	7,970	479	38,200	102	5,730	432	24,800	102
14	13,500	456	61,600	100	7,880	471	37,100	99	5,620	434	24,400	101
15	13,500	438	59,100	96	7,900	450	35,600	95	5,590	421	23,500	98
16	13,700	431	59,000	95	8,080	489	39,500	103	5,640	347	19,600	81
17	13,900	471	65,500	103	8,290	491	40,700	103	5,640	441	24,900	102
18	13,900	429	59,600	93	8,270	446	36,900	93	5,640	404	22,800	94
19	13,800	450	62,100	98	8,210	456	37,400	95	5,570	441	24,600	102
20	13,600	493	67,000	107	8,030	509	40,900	106	5,560	471	26,200	109
21	13,500	470	63,500	102	8,020	491	39,400	103	5,520	439	24,200	102
22	13,100	448	58,700	98	7,690	468	36,000	98	5,450	420	22,900	97
23	12,900	459	59,200	100	7,560	466	35,200	97	5,340	448	23,900	104
24	12,900	449	57,900	98	7,550	469	35,400	98	5,310	419	22,200	97
25	13,000	449	58,400	98	7,650	473	36,200	98	5,360	414	22,200	96
26	12,700	438	55,600	95	7,400	470	34,800	98	5,330	393	20,900	91

【参考】

農家等が使用しているふるい目幅別の分布状況（過去5年平均値）

農業地域	合計	1.7mm	1.75mm	1.80mm	1.85mm	1.90mm	2.00mm以上
	%	%	%	%	%	%	%
四 国	100.0	0.4	10.1	71.5	17.5	0.6	—

【 調査の概要 】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の水稲調査の中の作柄概況調査として実施し、水稲の生育・作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としています。

2 調査の対象

- (1) 調査は、全国の各都道府県を対象に調査を行っています。
- (2) 早期栽培とは、主に台風による被害を避けるため8月中旬頃までに刈取りがおおむね終了する栽培方法をいいます。それ以外のものを普通栽培としています。
- (3) 高知県の作柄表示地帯の区分は下記のとおりです。

作柄表示地帯	該 当 市 町 村
中 東 部	高知市、室戸市、安芸市、南国市、土佐市、香南市、香美市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、芸西村、本山町、大豊町、土佐町、大川村、いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村
西 部	須崎市、宿毛市、土佐清水市、四万十市、中土佐町、梶原町、津野町、四万十町、大月町、三原村、黒潮町

3 調査対象数

作況標本筆：170筆（うち早期98筆） 作況基準筆：7筆（うち早期4筆）

巡回・見積り：34市町村

4 調査事項

は種期の遅速、田植期の遅速、活着の良否、草丈の長短、茎数の多少、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況及び耕種状況

5 調査期日

8月15日現在で水稲の生育・作柄概況を調査しました。

6 調査方法

調査は、職員又は統計調査員による、作況標本筆及び作況基準筆に対する実測調査並びに巡回・見積りにより行いました。

7 集計方法

調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、巡回・見積りにより補完して取りまとめています。

8 用語の解説

- (1) 「穂数の多少」とは、1㎡当りに出穂した全ての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (2) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についている全てのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (3) 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりの全てのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (4) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表しています。
- (5) 「草丈の長短」とは、地際から一番長い葉先までの長さ（草丈）が、平年と比較して長いか短いかを表しており、長い、やや長い、平年並み、やや短い、短い5段階で表しています。
- (6) 「茎数の多少」とは、1㎡当たりの全ての茎の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (7) 「生育の良否」とは、茎数の多少、草丈の長短、生育の遅速及び被害の多少等を総合し、これを平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表しています。
- (8) 前述の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した1㎡当たり穂数等の各収量構成要素の平年値との比較です。
- (9) 「作況指数」とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり予想収量の比率です。

なお、平成26年産以前は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出していましたが、平成27年産からは、当該全国農業地域の農家等が使用しているふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅（四国は1.75mm）以上に

選別された玄米を基に算出しています。

- (10) 「10 a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される 10 a 当たり収量をいいます。

9 利用上の注意

統計数値については、下記の方法で四捨五入しています。

原 数		7 桁以上 (100万)	6 桁 (10万)	5 桁 (万)	4 桁 (1,000)	3 桁以下 (100)
四捨五入する桁数（下から）		3 桁	2 桁		1 桁	四捨五入しない
例	四捨五入する前（原数）	1,234,567	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した後（統計数値）	1,235,000	123,500	12,300	1,230	123

10 その他

本調査（8月15日現在）は、刈取りが可能なほ場では刈取り調査となりますが、刈取りできないほ場では、株数、穂数、もみ数及び登熟状況のうち、計測可能なものを調査しました。また、調査できない収量構成要素は、過去の調査結果と調査時点までの気象データ等により推定し、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行いました。したがって、8月16日以降の気象条件により作柄は変動することがあります。

【ホームページ掲載案内】

各種農林水産統計調査結果は、中国四国農政局ホームページの「統計情報」で御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/chushi/info/index.html> 】

お問合せ先

◎ 本統計調査結果について

連絡先：中国四国農政局高知地域センター
農政推進グループ統計審査チーム
電 話：088(875)7234（代表）